

雲南の山地少数民族の村々を訪ねて 2008年秋

—雲南懇話会第5回フィールドワークより—

前田 栄三

I. フィールドワークの概要

1. 要 点；

- (1) タイ族・彝（イ）族の民族文化生態村2箇所、及び元陽・棚田の蛤尼（ハニ）族、壮（チワン）族、苗族の村5箇所を訪問し、生活文化の実態の一端を観察することが出来た。各少数民族がその生活環境と文化を守り育てかつ伝承していく課題と方策を理解する第1歩としたい。
- (2) 雲南大学 尹紹亭教授が全行程を一緒され、多方面に亘るご指導とご配慮をいただいた。

2. 訪問先；

- (1) 玉溪地区新平県腰街鎮南碱村・花腰タイ族（文化生態村）
- (2) 元陽県梯田鎮・蛤尼（ハニ）族の村2か所
- (3) 文山州丘北県仙人洞村・彝（イ）族（文化生態村）と白臉村（少年少女の歓迎の踊り）
- (4) 丘北県錦屏鎮碧松鷲村・壮（チワン）族の村
- (5) 新平市から個旧市を経て、山上（標高約2000m）の苗族の村（^{カーフアンツェン}カ房鎮）

3. 期 間： 2008年11月2日（日）～2008年11月15日（土）、全14日間

4. 参加者（敬称略）： 亀田義憲（団長）、前田栄三（副団長）、秋畑 進（コーディネーター）、岡 邦俊、 神山 巍、 齋喜國雄、 松島岳生 計7名

5. 中国側参加者

- 雲南大学民族研究院 尹紹亭 教授
雲南大学民族研究院 張 海 博士研究生（英語通訳、記録）
雲南大学民族研究院 曹津永 修士研究生（英語通訳、兼中国側 Coordinator）
雲南師範大学外語学院 宋旭艷 学部4年生（女性の日本語通訳）
(元) 雲南省文山州丘北県旅游局長 羅樹昆（苗族、彝族、壮族の村の案内役として同行）

6. 日程詳細と訪問先

- (1) 11/2（日） 成田～昆明着 昆明・雲南大学ホテル 泊
- (2) 11/3（月） 雲南民族博物館、雲南民族村訪問。 昆明・雲南大学ホテル 泊
- (3) 11/4（火） 午前中移動、新平県宣伝部長（彝族）らを交え昼食。タイ族文化生態村訪問。夜、文化生態村村長らと会食。 新平県腰街鎮・花腰タイ族村 泊
- (4) 11/5（水） タイ族文化生態村滞在。昼食後、県城に移動。 新平県鑫源酒店 泊
- (5) 11/6（木） 新平市から建水、個旧市を経て山上（標高約2000m）の苗族の村へ移動。21時頃到着。個旧より紅河州苗族会長が同行。 苗族村一番の民家 泊

- (6) 11/7 (金) 苗族の葬儀を視察。蒙自へ移動して昼食。紅河州博物館訪問、副館長より説明を受ける。 蒙自市天源酒店 泊
- (7) 11/8 (土) 午前中、蒙自より移動。数ヶ所で棚田観察。 元陽県雲梯大酒店 泊
- (8) 11/9 (日) 棚田観察、畦道を歩き蛤尼(ハニ)族村2か所訪問。昼食後、開遠へ移動。 開遠市滇南大飯店 泊
- (9) 11/10 (月) 午前中、開遠より移動。丘北市で壮族副学会長・サニ族学会長らが加わり、会食。その後一緒に彝族の村を訪問して、少年少女15人の演舞を視察。夜、仙人洞村村長さん(現職と前職)らと晚餐会。その後、彝族の演舞を数ヶ所で鑑賞。 丘北県仙人洞村民宿 泊
- (10) 11/11 (火) 壮(チワン)族村訪問。壮族学会長・錦屏鎮長らが加わり、民族楽器の演奏、民族衣裳姿の婦人多数の演舞、機織り等生活の一端を視察、昼餐会。 丘北県仙人洞村民宿 泊
- (11) 11/12 (水) 仙人洞村(彝族文化生態村)滞在、神山を登る。(元)丘北県旅游局長羅樹昆さん直々の説明を受ける。昼食後、一大リゾート地に移動。 弥勒市湖泉酒店 泊
- (12) 11/13 (木) 石林訪問。昼食後、昆明へ。 昆明・雲南大学ホテル 泊
- (13) 11/14 (金) 自由行動。 夜、Farewell Party 雲南大学ホテル 泊
- (14) 11/15 (土) 昆明発～帰国

II. 盆地世界で想うこと

雲嶺(四川省との境にある山地)の南に位置するのでその名が付いた雲南省は、人口約4,500万人、日本(37.8万k㎡)とほぼ同じ面積(39.4万k㎡)を持つ。

雲南省の盆地は、面積的には6%を占めるに過ぎず、大部分は山地・高原地域である。しかし人口は、盆地(山間、河谷盆地)、特に標高1300m~2500mの中標高盆地に集中している。

《本項の主たる参考文献；京都大学東南アジア研究センター編集「東南アジア研究」Vol.35 No.3》

1. 雲南のタイ族 《日本人そっくりな女性とその「微笑み」、王国の栄光と哀しみの歴史》

中国のタイ族は、総人口107万人余と推計され(90年代末)、そのほとんどが雲南に住む。タイ語系民族の中で「タイ」を自称する民族は、ミャンマー(約250万)、タイ(約2600万)、ラオス(約18万)、ヴェトナム(約100万)等に居住している。タイとは^{からすき}犁を意味し古代から水稻耕作を営み、精霊信仰を持ち続けている。「雲南タイ族の世界」古島琴子著、P8~9)

- (1) 雲南省の最も早い住民は越人と濮人で、越人はタイ族・チワン族などの祖先という。
- (2) 『史記』や『漢書』などによると、越人は秦代以前から長江東南の沿海部(浙江、福建、広東、広西)から雲南、東南アジア北部に至る広範な地域に住んだ古代の農耕民族で、雲南の越人は滇越といわれた。
- (3) 雲南のタイ族は、滇越を祖先とする雲南の先住民である。「雲南タイ族の世界」より)

- (4) 雲南のタイ族の呼称、その分布 (タイ族は「tai」と自称した。「tai」は自由人を意味する)
- ・ 「tailw」; 水タイ (shuitai) … シーサンパンナ州、徳宏州瑞麗などの県に分布。
 - ・ 「taine」; 旱タイ (hantai) … 徳宏州及び景谷、臨滄などの県に分布。
 - ・ 「taiya」; 花腰タイ (huayaotai) …元江、新平などの県に分布。
 - ・ 中華人民共和国成立後、漢族はこれらの傍系を統一してタイ(イ+泰)族と称している。
- (5) タイ族の誇り…雲南西部からミャンマー北部のタイ族を統合した大モンマウ国の栄光。14世紀半ば思翰法の登場。元の征討軍と戦う。1368年元滅亡、1369年?思翰法死去。明により1381年大理国滅亡。1446年、明に軍事制圧さる。王位にあった思昂法の敗死。

2. ユーカリの植林

- (1) 何ゆえ雲南にユーカリが…? 照葉樹林とは異なる異様な景観! 原植生の面影なし!
- (2) 漢民族の大量移住と標高1300m~2500mの中標高盆地への集中。雲南省の盆地の大部分がこの中標高の盆地(全盆地面積の77.3%)となっている。
- (3) 漢民族による盆地周辺地域の徹底的な伐採、利用できるものは徹底して利用するという姿勢。これが漢民族の主な居住空間である中標高盆地周辺の顕著な森林破壊に至る。
- (4) 更に今世紀の「長期化した日中戦争」で山林は荒廃し、「大躍進運動」(土法煉鋼炉と公共食堂の燃料材)により根こそぎにされた、言わばダメ押し的な森林破壊、荒廃。
- (5) **転換点** 1981年に公布された「三定事業」政策が軌道に乗るにつれ、盆地の周囲で『ユーカリ植栽』が広がった。この「事業」で山林の1部が「自留山」として各々に分配され、政府の指導・援助を受け、農民自ら植林を行い、生産物を販売出来ることになった。
- (6) 「自留山」へのユーカリの植林は、農民には貴重な現金収入(ユーカリ油、薪炭材、建材)であり、その結果、中標高盆地周辺ではユーカリの植林が急速に進行することになった。漢民族の中標高盆地におけるユーカリ植林は、「三定事業」の成果である…という。

中標高盆地の植生の将来にユーカリが重なり、暗澹たる気持ちに陥るばかりである。漢民族とは何か! 秦漢帝国誕生以来、『中華帝国に帰属する民=漢族』という意識付け。秦の巴蜀攻略・前316、漢の武帝・前112南越攻略/前109雲南攻略、元のフライ、明・清…。

低標高盆地に住む雲南タイ族の村、緑豊かで穏やかな生活風景が殊の外に心に響き沁み入る。タイ族の文化や生態そして歴史をもっともっと知りたいと思う。低地に居住しているという利点が漢民族の流入を抑止し、今後とも利点として機能し続けることを祈りたい。

雲南での漢民族による森林破壊とユーカリの植林! 然しながら私達自身も紙パルプ需要の増大に合わせ、森を伐採しまくってきたのではなかったか! アマゾンやボルネオの熱帯雨林の惨状は何を物語るのだろう。ブラジルではユーカリの植林面積は300万ヘクタール、世界最大のユーカリ植林国という。然もこれは森林に限った話では全くない。以上

第 5 回雲南フィールド・ワークに参加して

神 山 巍

1. 雲南が中国の他地域に対する特色は、

- ① 水量豊富な川がいくつもある。今回行ったのは、その内の紅河（ホンホー）のほとり。河の流域に沿った山河、谷間、盆地、平野に稲作を中心とする農業が展開されていた。
- ② 気候が亜熱帯的で雨期（4月～9月）がある。ブーゲンビリアが咲き、バナナが実り、山に多量の雨をもたらす。棚田が山の上から下へ下へと作られ、その姿は美しく、悠久に変わらない。2千年の歴史を持つと言う。
- ③ 巨大な山稜が幾つも形成されていて、ヒマラヤから東南アジアへと続く。標高 6000m から 3000～1000m位まで。少数民族がその高低の中に棲み分け、独特の文化を形成している。今回行ったのはそのうちの哀牢山地（AILAO MOUN-TAINS）。山地の谷間に扇状に広がる美しい棚田を幾つも見た。

2. 稲作に関連していた水の習俗がある。水の神を祭り、儀礼が行われていた。

- ① タイ族は全民族が 8 C 以降、上座部仏教に帰依したと言われ、祝祭日は全て仏教に関連していると言われているが、そのほとんどに水に関連している。
撥水節（ポースイチエ）（水掛祭り）（タイ暦新年：太陽暦の 4 月上旬）では、男女が盛装して寺に参る。仏像に水をかけ、洗塵する。人々も互いに水を掛け合う。
- ② 今回訪れた新平県の花腰タイ族の村は無宗教ではあるが、山と川の神を信仰していた。アニミズムの世界。神は木に宿る。水を崇める点は他のタイ族と同じ。水を崇める習俗は、稲作、漁労に関連していると思われる。

3. 上記、花腰タイ族の村の文化伝習館で脱穀用と言う木製函を見た。

山形県鶴岡市の致道館で見た「根船」（蕨の水晒しを行う為の木製函）と同じものだった。私は水晒しに使ったこともあるのではないかと思った。

4 訪れたどの少数民族も美しい刺繍を見せてくれた。

それぞれの村で振舞われた白酒（パーチュウ）はそれぞれ独特のものだった。中国文化の美しい面、楽しい面を見せてもらった。刺繍、棚田、儀礼、歌、踊り、村落の佇まいなど等。

5. 人類がそれぞれに築いてきたそれぞれに固有の文化を、文化相対主義の立場から積極的に認めたルース・ベネダイクトに行き着き、今、その勉強を始めたところです。

6. 今年も雲南フィールドワークに参加させていただき積もりです。以上